

1. はじめに

1999年4月29日から9月19日までの144日間、和歌山県田辺市の田辺新庄シンボルパークと那智勝浦町の那智勝浦シンボルパークを拠点に和歌山県南紀熊野地域全体を会場とするオープンエリア方式の「南紀熊野体験博」が開催され、310万人余の来訪者があった。この南紀熊野体験博は和歌山県南部における観光客の誘致に役立ったと考えられるが、これを契機に観光地としての魅力を継続させていくことが重要である。

本研究は、トリップ調査による観光客の交通行動及び観光地での滞留状況の把握に基づいて、南紀熊野地域への来訪者の属性と交通行動の特性を明らかにするとともに、観光地での滞留時間分析に基づき観光地の魅力度計測のための基礎分析を行う。

2. アンケート調査の概要

アンケート調査の内容はパーソントリップ調査の要領により、その1回の観光（南紀熊野体験博を含む観光）での立ち寄った場所と滞在時間、出発から到着までの所要時間を記入してもらうというものである。そして、観光客の属性として、現住所、同行者属性、来訪者属性、途中経路の情報としての渋滞状況、公共交通の利便性、観光地の魅力に関連することとして目的地の感想、全体の感想と言った内容を盛り込んだ。

調査は調査設計のために和歌山高専計画研究室が実施したプレ調査と和歌山県の協力による本調査とに別れる。プレ調査は5月に実施し、那智勝浦・田辺の両シンボルパーク専用駐車場と最寄りのバス停で合計300枚を配布した。本調査は和歌山県の協力により7月31日～8月22日の期間に合計8,245枚を配布した。アンケート票は、後日添え付けの封筒にいれて返送してもらうという方法をとった。回収した有効アンケート数は486枚、有効回収率6%であった。アンケートの回収結果を表-1に示す。

表-1 アンケート調査回収結果

	プレ調査			本調査			全体		
配布場所	勝浦	田辺	計	勝浦	田辺	計	勝浦	田辺	計
配布枚数(枚)	145	155	300	1444	6801	8245	1589	6956	8545
回収枚数(枚)	34	26	60	186	350	536	220	376	596
回収率(%)	23	17	20	13	5	7	14	5	7

3. 来訪者の特性

来訪者の出発地を見ると(図-1)、和歌山県内が約40%、また隣県の大阪府・奈良県・三重県が約37%で、これらを合わせると全体の約80%に相当する。特に紀南地方は高速道路が整備されておらず、鉄道も単線であることから遠方からの来訪者は少ない傾向にある。今回のアンケート調査は南紀熊野体験博のシンボルパークを訪れた観光客に限ったものではあるが、およそその傾向を表しているものと考えられる。

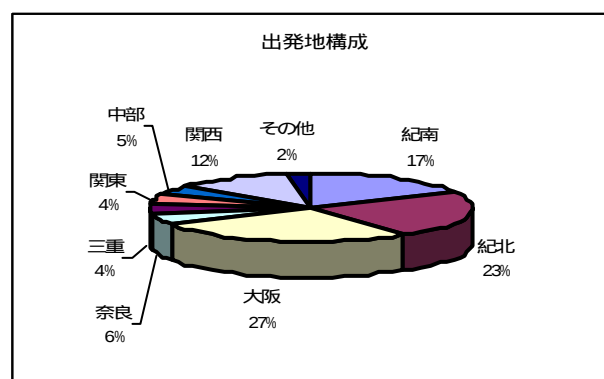


図-1 来訪者の出発地構成

次に、出発地別に来訪者の交通手段(出発地から最

キーワード：観光交通、観光地魅力度、トリップ分析、滞在時間分析

連絡先：〒644-0023 和歌山県御坊市名田町野島 77, FAX 0738-29-8469, E-mail tito@wakayama-nct.ac.jp

初の訪問地までの手段)を見ると(図-2),紀南出発においては,約95%が自家用車による来訪となっているのに対して,紀北出発で約90%,県外出発では自家用車の利用は約50%とさらに低くなっている。自家用車で移動した場合,移動の自由さが利点であるが,紀南のように軸となる道路が国道42号線だけとなると渋滞を回避することが難しい。また,県外からの来訪になると渋滞があればそれだけ観光の時間が減ることになり,公共交通の利用比率が高くなっているものと見られる。

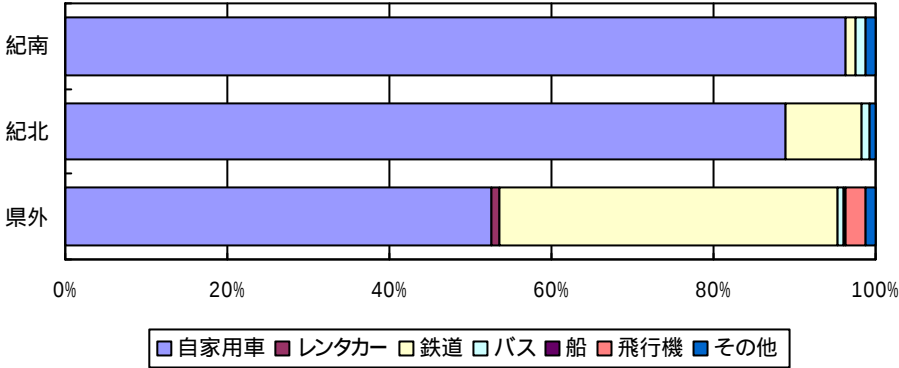


図-2 出発地別利用交通手段構成

4. 南紀熊野地域における訪問客数と滞在時間の関係

観光地の魅力度を考察していくにあたり,観光地の年間訪問客数と観光地での滞在時間の関係を見てみる。南紀の主な観光地の年間訪問客数(平成9年度)を表-2に示す。これを見ると,白浜地区だけが日帰り客より宿泊客の方が多くことがわかる。その他の地区においては,日帰り客数は本宮地区を除いてあまり変わらない。しかし,白浜,勝浦は宿泊客の比率が他地区に比べて格段に多く,これがそのまま訪問客数に反映している。これは白浜,勝浦は宿泊施設が多いことが要因の1つとして考えられる。

表-2 年間訪問客数

	宿泊客	日帰客	訪問客(計)
新宮	134,460	1,316,867	1,451,327
白浜	2,272,661	1,395,846	3,668,507
串本	318,587	1,153,559	1,472,186
勝浦	1,336,789	1,410,314	2,747,103
本宮	212,237	311,316	523,553
合計	4,274,734	5,587,902	9,862,676

平成9年度 和歌山県観光客動態調査報告書による

次に,アンケート調査により得られた各施設の平均滞在時間を地区別に集計したものを表-3に,各施設へ以前に訪問したことがあるかどうかの割合を地区別に集計したものを表-4に示す。

表-3 訪問施設の平均滞在時間(分)

	新宮	白浜	串本	勝浦	本宮
宿泊施設	895	990	871	1004	988
観光施設	76	122	95	93	95

表-3より宿泊施設が充実している白浜,勝浦においては,その滞在時間が長い傾向にあり,結果として白浜,勝浦は宿泊客も多くなっている。逆に,宿泊施設の滞在時間が短い新宮,串本は,宿泊客が少ない傾向にある。しかしながら,白浜,勝浦について宿泊施設の滞在時間が長い本宮は,宿泊客が大幅に少なくなっている。観光施設に関しては,滞在時間の大小に関わらず訪問客数に変わりがない傾向となっている。

表-4 リピーターの割合

	新宮	白浜	串本	勝浦	本宮
訪問数	33	340	71	361	66
リピーター数	5	132	20	63	21
割合(%)	15	39	28	18	32

リピーター数と訪問客数の関係については,再訪した割合が多い白浜は訪問客数も多くなっている。本宮はリピーターが多く潜在的な魅力があるものと考えられる。勝浦において再訪割合が少ない点は,潜在的な魅力に欠けている面も考えられ,今後の訪問客数の動向に注意していく必要がある。

5. おわりに

観光政策に対する知見を深めるために,今後は観光周遊行動パターンの解析,観光地の魅力度の計測についてのさらなる解析が必要である。

なお,本研究は和歌山県「わかやま学21」地域連携推進事業補助金の助成を得た。また,和歌山県土木部道路建設課,及び平成11年度和歌山高専環境都市工学科卒業生 須山昌典氏,中川洋一氏 には,本研究の遂行において多大な協力を得た。ここに記して感謝の意を表する。